

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：6/25～6/29

・ 6/25(月)

ワールドカップの放送のため、今日の NEWS23 は放送されませんでした。

・ 6/26(火)

トランプ大統領、佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言、小笠原諸島返還 50 年、高円宮家絢子さま婚約へなどについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の観点から検証を行いました。佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言については放送法上の問題があるシーンや印象操作の疑いのあるシーンが見られました。またこのトピックについては検証者の所感を記しました。

・ 6/27(水)

ワールドカップの放送のため、今日の NEWS23 は放送されませんでした。

・ 6/28(木)

高度プロフェッショナル制度、細野豪志氏が衆院選中に 5000 万円受け取り、などが報じられました。これら例示したトピックについて、放送法第四条の観点から検証を行ったところ、高度プロフェッショナル制度についての報道では放送法上問題のある場面が見られました。また、高度プロフェッショナル制度については印象操作の疑いも見られました。

・ 6/29(金)

小室圭氏が米国のロースクールに留学、「働き方改革」法案などについて報じられました。これら例示したトピックについては放送法第四条の観点から検証を行いました。特に問題は見られませんでした。

なお、「働き方改革」法案についての報道では検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年6月26日
出演者：星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙		
検証テーマ：トランプ大統領、佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言 小笠原諸島返還 50 年、高円宮家絢子さま婚約へ		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> ・【再審】富山県で元自衛官の男が交番を襲撃、拳銃を奪い発砲 ・ワールドカップ、日本代表の最新情報 ・トランプ大統領とハーレー・ダビッドソン ・車がインターネットとつながるコネクティッドカー ・佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言 ・全国で真夏日 313 地点 ・日大アメフト部悪質タックル問題、内田前監督を正式に永久追放 ・地震確率「予測地図」最新版が公開、北海道東部が急上昇 ・小笠原諸島返還 50 年 ・スポーツ報道 ・高円宮家絢子さま婚約へ ・23Today <ul style="list-style-type: none"> 富山県で元自衛官の男が交番を襲撃 ワールドカップ 高円宮家絢子さま婚約へ 福岡、IT 講師殺害事件 みずほ証券でトラブル、ネット上で株式売買できず ・天気予報 ※明日はワールドカップのため NEWS23 はお休みとのこと		
放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> ・トランプ大統領：結論→特に問題なし <p>トランプ大統領の関税政策に対してアメリカのバイクメーカーであるハーレー・ダビッドソンが生産拠点をアメリカ国外に移りたこと、これに対してトランプ大統領が「彼らのために戦っている最中、辛抱してほしい。」「もし移したら彼らの終わりの始まりだ。」と Twitter に投稿したことが報じられた。また、トランプ政権のサンダース補佐官が週末に家族で夕食を撮ろうとしたらトランプ政権で仕事をしていることを理由に店を出されたこと、これに対してトランプ大統領が「サンダース氏のような素晴らしい人の接客を断るより、汚れたひさしやドアや窓の掃除にもっと集中すべきだ。外観の汚いレストランは店内も汚いというのが私なりの法則だ。」と Twitter で応酬したことが報じられた。</p> <p>スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。</p> 		

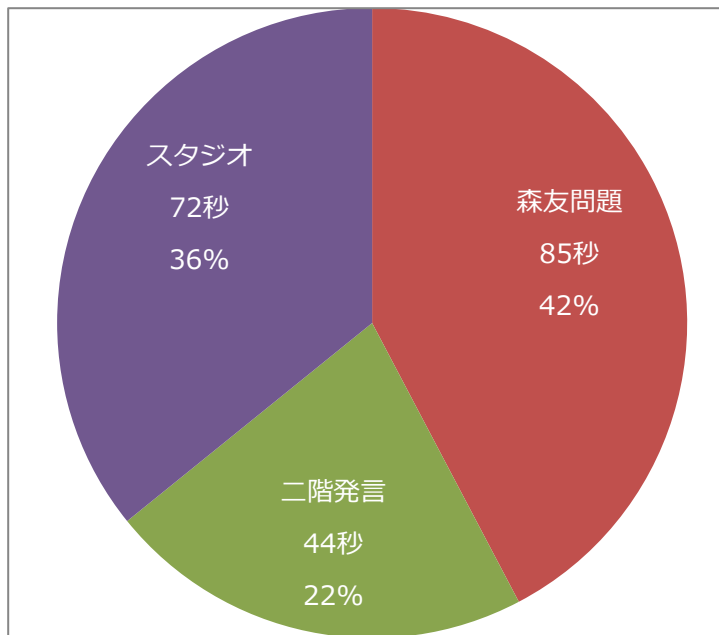
駒田健吾「この関税引き上げの政策は星さんは以前、必ずブーメランとなって帰ってくるというふうに指摘されていましたが、今回、このブーメラン、早かったか遅かったか。」

星浩「そうですね、やっぱり経済は全部つながっているということと、企業はやっぱりこういう変化、関税などの変化に対して早く対応しなくちゃいけないということありますから、ブーメラン効果、早めに出たということですよ。もともと関税の引き上げというような無茶なことやるとだいたいこういう事が起きてくるんですけども、今回は秋の中間選挙を睨んでその人気取りでやったわけですよ、どうもトランプさんのいろんな政策、裏目に出はじめた所あるかもしれませんね。」

・佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言：結論→やや問題あり

永田町の動きについて佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言について伝えられた。

このトピックに当てられた時間は秒で、この問題は佐川前長官の偽証についてと、二階幹事長の発言について、そしてスタジオでの論評に大別され、時間配分及び比率は以下の通りであった。



森友問題については森友問題について認識した時期を問われた佐川宣寿前国税庁長官の「私もなにか、昨年その2月の下旬の新聞の報道で初めて知ったわけでございまして。」という証言を野党が偽証であるとして立憲民主党などが追及を強め議院証言法違反の疑いで告発するよう申し入れていること、これに対して自民党幹部の「検察は不起訴と判断した。退職金だってかなり減らされている、野党側はこれ以上何をしたいというのか。」と冷やかなコメントが取り上げられた。

二階幹事長については二階幹事長が少子化について「この頃ね、子供を産まないほうが幸せじゃないか、遅れるんじゃないかという勝手なことを自分で考えてね」と発言したことが取り上げられた。」

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

雨宮塔子「二階幹事長の失言ですが、自民党はこの前も子供を産まない女性に対する不適切な発言がありました

よね、どうしてこうも失言が相次ぐのでしょうか。」

星浩「まあ私の見るところ2つくらい理由があって、まあ二階さんの今日の発言は、まあ言ってみれば二階さんの本音ですね。この世代の人達の家族観、といいますかね、その本音が出たということだと思います。それともう一つはね、その自民党の中で、その家族のあり方とかいうことについてきちんと議論したことがないものだから、昔、一時代も二時代も昔の考え方が未だに温存されているという面があってこういう言葉が出てくるということですよ。」

星浩「それとやっぱり、今日あの議院証言法に基づく佐川前局長の偽証問題ですね、何点か確かに偽証の疑い確かにあるものだから、これは国会の権威に関わる話ですので、ちゃんと自民党も受け止めてですね、偽証になっているかどうか議論してほしいですね。」

また番組のクロージングでは星キャスターが「明日は国会で党首討論がありましてね、米朝首脳会談を承けてね、北朝鮮とどう向き合うかっていう問題議論してもらいたいと思います、それから未だに霧が晴れない森友加計問題がありますからね、これもしっかり議論してもらいたいと思います。」と発言していた。

二階幹事長の発言について星キャスターが理由を「この世代の人達の家族観」と「家族のあり方とかいうことについてきちんと議論したことがない」という二点をあげていたが、前者はともかくとして、後者についてはとんでもない話である。今国会では民法の相続分野についても議論が繰り広げられたが、「相続」とは家族関係と密接な関係にある行為で、家族のあり方を議論せずに相続のあり方を議論することは不可能であり、「家族のあり方について議論したことがない」というのは大きな誤りである。

また、雨宮キャスターが言及していた「自民党はこの前も子供を産まない助成に対する不適切な発言がありました」というのは加藤寛治衆議院議員(長崎2区、当選3回)のことだろうが、これについても「結婚しなければ、子供が生まれず、人様の子供の税金で老人ホームに行くことになる」という趣旨のことであり、二階幹事長にしても加藤衆議院議員にしても念頭には次世代が拡大再生産とまでいかずとも再生産されることを前提としている社会保障の問題があることが伺える。にもかかわらず、今回のスタジオでの議論はそうした社会保障の問題には一切切り込まず、単に「世代の家族観」という雑な議論や、「家族のあり方について議論したことがない」などという事実に反する印象論に堕しているというのは非常に残念であり放送法第四条一項四号の「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らしても不十分なものである。

・小笠原諸島返還 50 年：結論→問題なし

小笠原諸島が戦後のアメリカ軍による占領から変換されて今日で 50 年の節目を迎えたこと、2011 年に世界自然遺産に登録されたものの、観光振興や医療体制の充実のため小笠原村は空港の新設を国や東京都に要望していて、環境保全と開発の両立が課題となっていることが伝えられた。このトピックに当てられた時間は 24 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・高円宮家の絢子さま婚約：結論→問題なし

高円宮家の三女、絢子様が海運大手日本郵船に勤務する守谷慧さんと婚約されることになったとのが報じられた。このトピックに当てられた時間は 27 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

- ・ 佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言：結論→問題あり

前欄でも述べたように、実際に国会や自民党内では家族のあり方についても議論をしているにもかかわらず、そうした議論を報じずに「家族のあり方について議論したことがない」などと断じるのは放送法第四条一項三号「報道は事実を曲げないですること」という点から問題があるのみならず、印象操作の疑いすらあるといえる。

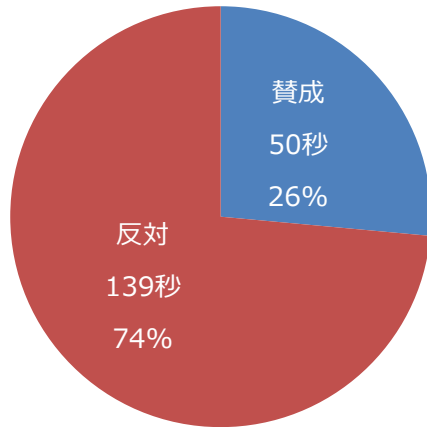
検証者所感

- ・ 佐川前長官の偽証と二階幹事長の発言

星キャスターの「二階さんの今日の発言は、まあ言ってみれば二階さんの本音ですね。この世代の人達の家族観、といますかね、その本音が出たということだと思います。」というコメントが非常に印象的だった。二階幹事長は 79 歳、対して星キャスターは 62 歳、どちらも大卒では「高齢者」にカテゴライズされる年齢だが、それでも星キャスターから見ると二階幹事長の世代は相当古い世代、という認識を持っているのだということが見受けられ、驚きを感じた。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2018年6月28日
出演者：星浩、雨宮塔子、皆川玲菜、駒田健吾、宇内梨沙		
検証テーマ：高度プロフェッショナル制度、細野豪志氏が衆院選中に5000万円受け取り		
報道トピック一覧		
<ul style="list-style-type: none"> ・高度プロフェッショナル制度 ・スルガ銀の杜撰融資 ・スポーツ情報 ・23Today <ul style="list-style-type: none"> 大麻密輸販売でラッパー逮捕 「ドカベン」46年で幕 中国で小学生が男に切りつけられ死亡 ・交番襲撃事件 ・紀州のドンファン ・タイでサッカー少年らが行方不明 ・細野豪志氏が衆院選中に5000万円受け取り ・ワールドカップ ・天気予報 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<ul style="list-style-type: none"> ・高度プロフェッショナル制度→結論：放送法第四条第一項二号に抵触の恐れ <p>年収1075万円以上のアナリストやコンサルタントなどの一部専門職について労働時間の規制の対象から外す高度プロフェッショナル制度についての報道。このトピックスの報道時間は444秒であった。高度プロフェッショナル制度に対して否定的な意見を反対、肯定的な意見を賛成として集計したところ賛否の時間配分、及び比率は以下の通りだった。</p>		



賛成意見としては加藤勝信厚労相が浜野喜史参院議員からの「働くものの側から要請があったと理解してよろしいでしょうか。」という質問に対して「私も色々お話を聞く中で自分のペースで仕事をしていきたいんだ。そういった是非働き方を作ってほしいというご要望いただきました。」と労働者側からの要望があったとの発言などが取り上げられた。

反対意見としては福島みずほ議員の「物凄い手抜きなんです。いろんな方の声を聞きました。高度プロフェッショナル制度の導入ですってチャンチャラおかしい。」という発言や法政大学の上西充子教授の「業種、業務がどこまで広がるかが分からない。派遣法も最初はかなり職種を限定してやっていたんですけども、それがだんだん職種が拡大して製造業でも派遣してもいいよとなっていった。そこからの教訓は学び取るべきだし。」と法律の対象を危惧する発言などが取り上げられた。

また過労死で亡くなったNHKの記者の佐戸末和さんの母親である佐戸恵美子さんが「全国過労死を考える家族の会」として安倍総理に面談を求めたところ安倍総理から「法案の中身について熟知し議論の経過について十分に承知をしている。厚労省そして厚労大臣がですね、対応することは適切と判断したところございます。」との理由から面会が叶わなかったことについて「逃げられましたよね。逃げてますよね。厚生労働大臣の方に任せますとその一点張りです。死ぬまで働かされても違法にならないこれはもう絶対におかしいですよ。」と話していた。

またスタジオではコメンテーターの星浩氏は「労働現場で今求められてるのは、やはり長時間労働をきちんと規制してほしいという声ですよ。ただその経営者側からするとそれだけだとその新しく人を雇わなければいけないとかいうこともあるんで残業代を抑える込める高プロに期待をされると。そういうことなんですよ。」とコメントしていた。

全体を通して高度プロフェッショナル制度の内容について公平に論じられているとは言い難く、過労死に結び付けるような報道が目立った。賛否の比率の観点からも大きく反対意見が目立つ結果となった。以上のことをふまえると放送法第四条第一項二号の「政治的に公平であること。」に抵触している恐れがある。

NEWS23 週刊報告 詳細版

- ・細野豪志氏が衆院選中に 5000 万円受け取り→結論：特に問題は見られず

細野豪志氏が去年の衆議院選挙前に証券会社から五千万円を借り入れ、資産報告書に記載しなかったことについて、選挙後に希望の党の運営に使う可能性に備えて個人の判断で借りたなどと説明選挙資金であることを否定し、法律に基づいていると釈明したことについての報道。このトピックスの報道時間は 56 秒だった。なお今回は放送法第四条の観点からは問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

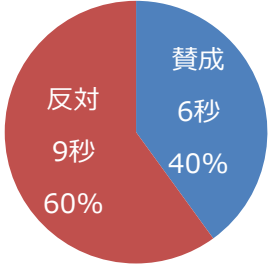
- ・高度プロフェッショナル制度→結論：印象操作の疑いあり

番組の後半部で過労死家族が「過労死家族の声を聞け！」とのデモを行っている様子を流しつつスタジオへ遷移する演出があった。これは高度プロフェッショナル制度に対しイコールで過労死の印象を与えかねないものであり、過労死家族の佐戸恵美子さんへのインタビューを含めて、視聴者に対して内容への適切な理解を促しているとは言い難く、印象操作の疑いがあると考えられる。

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS テレビ	番組名：NEWS23	放送日：2018年6月29日
<p>出演者： 星浩、雨宮塔子、駒田健吾、皆川玲奈、宇内梨沙</p>		
<p>検証テーマ：小室圭氏が米国のロースクールに留学、「働き方改革」法案</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象関係 <ul style="list-style-type: none"> 滋賀で竜巻 屋根吹き飛び8人がケガ 西日本で豪雨 関東甲信越で史上最速の梅雨明け ・ 日大アメフト部悪質タックル問題 第三者委がアメフト部元監督と元コーチについて「指導者の資質を著しく欠く」との見解を出す ・ サッカーW杯日本代表決勝トーナメント進出 ・ 「働き方改革」法案参院本会議で可決 ・ 小室圭氏が米国のロースクールに留学 ・ 東海道新幹線3人死傷の犯人、殺人未遂容疑で再逮捕 ・ 結愛ちゃん虐待死事件 厚労省も異例の検証へ ・ スポーツ報道 ・ 23Today <ul style="list-style-type: none"> 滋賀で竜巻 関東甲信が梅雨明け 6月中は史上初 タイ洞窟で13人依然不明 日本から排水専門家を派遣し捜索 ・ 気象情報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革：結論→特に問題なし <p>今回の報道は、本日参院本会議で働き方改革法案が可決・成立されたことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は142秒だった。本法案について肯定的な意見を賛成、否定的な意見を反対として集計したところ、賛否の時間配分及び比率は以下の通りだった。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>なお、賛成意見として安倍首相の「これからも働く人の目線に立って改革を進めていきたい。」が紹介され、反対意見では全国過労死を考える家族</p> </div> </div>		

の会代表の寺西笑子氏の「高度プロフェッショナル制度、本日成立してしまいました。本当にこのような制度で過労死すれば、国は責任を取るのでしょうか」が紹介された。

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

雨宮キャスター「法案の採決を巡り、野党の足並みが乱れましたね。」

星キャスター「委員長の解任決議などをめぐって足並みが乱れたわけですが、働く人の環境に影響する問題ですから、野党は結束して臨んでほしいと思いますね。それからこういうふうに関野党の中の足並みが乱れますと自民党はそこを突いてきて、憲法論議などでも野党の中の分断を図ろうとしますから、野党は結束を強めて出直してもらいたいと思いますね」

・小室圭氏が米国のロースクールに留学：結論→特に問題なし

秋篠宮家の長女の眞子さまとの婚約が内定している小室圭さんが弁護士資格の取得を目指しロースクールで学ぶため米国に渡ることがわかったこと、宮内庁は今年2月お二人の結婚式などの行事を再来年に延期すると発表していましたが具体的な日程は決まっていなかったことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は27秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨とくになし

検証者所感

・働き方改革

働き方改革法案の採決をめぐって、野党間の足並みが乱れたことに対して、星キャスターは「こういうふうに関野党の中の足並みが乱れますと自民党はそこを突いてきて、憲法論議などでも野党の中の分断を図ろうとしますから、野党は結束を強めて出直してもらいたいと思いますね」と論評し、各野党の結束の必要性を説いたが、そもそも論として野党各党は政策的な立ち位置や利害が異なるからこそ異なる党として存立しているわけであって、自公政権に数で対抗するために各党の差異を無視して結束を図っていかうというのはあまりにも乱暴ではないだろうか。

衆参両院で与党が過半数を大きく超えている状況下で、国会運営にて譲歩を勝ち取るために野党が共闘するのは理解に値するし、また財務省の公文書改ざん問題のような国民の行政機構への信頼を揺るがしかねない問題においては、野党が一丸となって政府を追い詰めるのは当然であるが、なにがなんでも野党は結束して反対すべきというのは同意できない。